

事業報告書

(自 2024 年 7 月 1 日 至 2025 年 6 月 30 日)

定款第3条に基づき、補体研究・調査、講演会・ワークショップなどの開催、機関誌・図書の発行などを行った。

I. 学術集会、講演会等の開催

1. 第60回日本補体学会学術集会を大阪大学・西村純一氏を集会長として、2024年9月13-15日に大阪グランドプリンスホテル大阪ベイで開催。
2. 第61回日本補体学会学術集会（2025年）を京都橘大学・今井優樹氏を集会長として、2025年8月22-23日に京都リサーチパーク・バズホールでの開催を決定。
3. 2026年第62回日本補体学会学術集会（2026年）を和歌山県立医科大学医学部・井上徳光氏を集会長とする事を決定。

II. 学会機関誌その他の刊行物の発行

1. 学会誌「補体」第61巻第1号を第60回日本補体学会学術集会開催時に発行。（2024年8月28日発行）。
2. 学会誌「補体」第61巻第2号を2024年12月20日発行。
3. 教科書「補体学入門 第2版」作成作業を継続中
4. 学会誌「補体」の総説などの論文をホームページとオンラインジャーナルで公開。

III. 研究の奨励及び研究業績の表彰

1. 第60回日本補体学会学術集会で、第60回日本補体学会優秀賞を北里大学医学部 膠原病・感染内科学 奥健志氏に授与。
2. 第60回日本補体学会学術集会において、第60回日本補体学会若手奨励賞を福島県立医科大学 菅谷竜朗氏に授与。

IV. 関連学術団体との連絡及び協力

引き続き、補体関連疾患の診断指針の作成と検査法向上の推進に向けて、関連学会と協力。

協力中の学会

- (1) 日本腎臓学会（aHUSの遺伝子検査）
- (2) 日本小児腎臓病学会（aHUSの遺伝子検査）
- (3) 日本免疫不全・自己炎症学会（補体欠損症および遺伝性血管性浮腫の遺伝子検査）

査) 「原発性免疫不全症候群の全国診療体制確立、移行医療体制構築、診療ガイドライン確立に関する研究」班に参加し、ガイドライン作成。

先天性補体欠損症

遺伝性血管性浮腫

V. 補体関連疾患の診断指針の作成と検査法向上の推進

1. 研究課題「新しい補体検査システムの構築による補体関連疾患の包括的登録と治療指針確立への展開」を引き続き推進。
2. 持続可能な補体タンパク質検査や補体関連遺伝子検査の推進。
3. 2024年4月より、Sobi Japan 株式会社による研究支援により名古屋大学腎不全システム治療学寄附講座および日本腎臓学会と共同で推進している日本膜性増殖性糸球体腎炎/C3腎症コホート研究において、膜性増殖性糸球体腎炎/C3腎症の遺伝子検査(かずさDNA研究所と契約)、タンパク質検査研究を実施。
4. 原発性免疫不全症候群の遺伝子検査として、日本免疫不全・自己炎症学会と共同で、2019年8月より補体欠損症 (pane1) と補体欠損症 (pane2/遺伝性血管性浮腫を含む)の2項目の遺伝子検査を整備し、検査報告書作成チームで、検査報告書の作成を実施。
5. 厚生労働科学研究費補助金「血液凝固異常症などに関する研究班」のaHUSサブグループ(丸山彰一氏 名古屋大学腎臓内科)と協力し、aHUSの遺伝子検査をかずさDNA研究所にて整備し、検査報告書作成チームで、報告書作成を日本補体学会が実施。
6. 愛知医科大学(渡邊栄三教授)との共同研究「敗血症病態における血小板減少症への補体系活性化の関与」を実施(旭化成ファーマからの支援 300万円)
7. 国立精神神経センター(山村隆特任研究部長)と和歌山県立医科大学(日本補体学会)の共同研究「サトラリズマブで効果不十分な視神経脊髄炎スペクトラム障害患者に対するラブリズマブへの切り替え研究 -リアルワールドでのラブリズマブの有効性と安全性の評価」を実施(アレクシオンファーマからの支援)

VI. 国際的な研究協力の推進

1. 2024年9月2-6日に、Lübeck (Germany)で行われた19th European Meeting on Complement in Human Diseases 2024に参加を推進する。
2. 2024年度も、The Standardization and External Quality Assessment (EQA) of Complement Analysisにおいて、年2回の標準検体の測定を行い、EQAの標準化に参加

VII. 会議

1. 1回の総会の開催
2. 2回の通常理事会の開催

VIII. その他目的を達成するために必要な事業

1. 必要に応じて、臨時理事会を開催し、決定する。
2. 委員会活動を活発する。